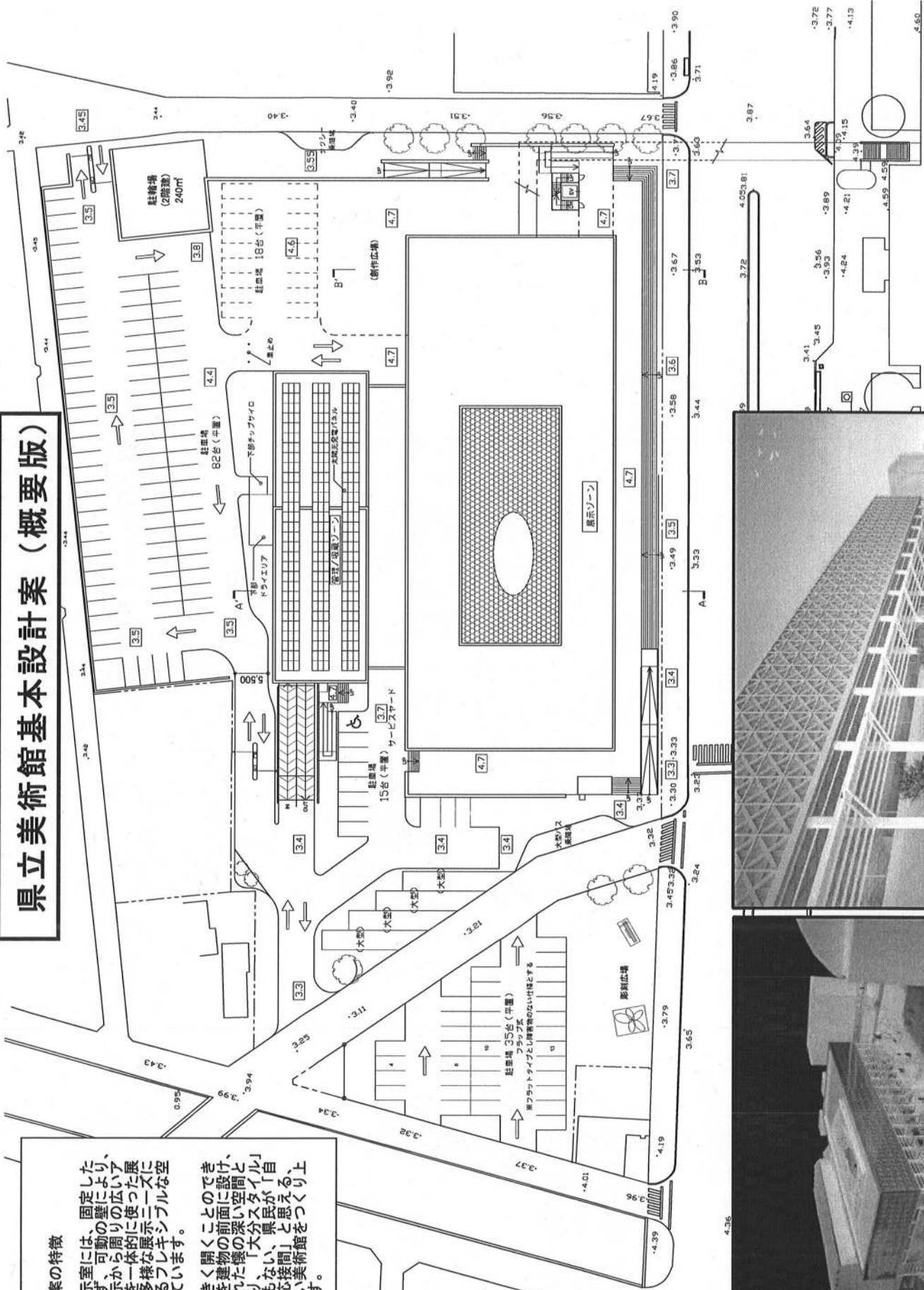


県立美術館基本設計案 (概要版)

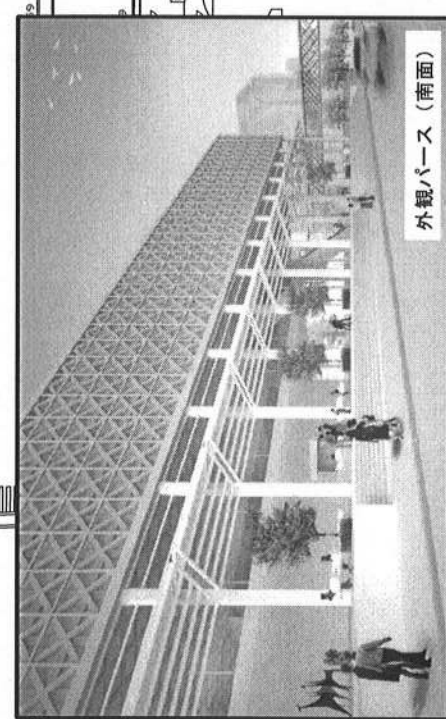
基本設計案の特徴

1階の展示室には、固定したり、壁を設けず、可動の壁により、閉じた展示空間と開いた展示空間を、多様な展示空間に切り替えることができます。大きく開くことで、前庭に設け、折りたたむことで、深い空間と、街に開かれた「大分県民が自らの展示空間」として、大分県立美術館をつくりだしていきます。



設計概要
敷地面積 約13,500㎡
延べ面積 約12,600㎡

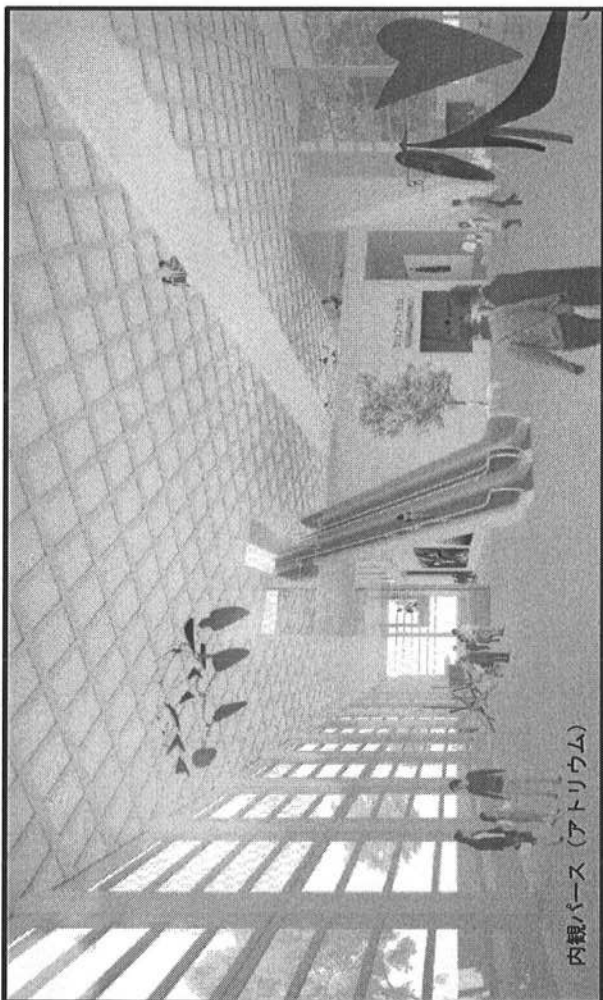
敷地計画図



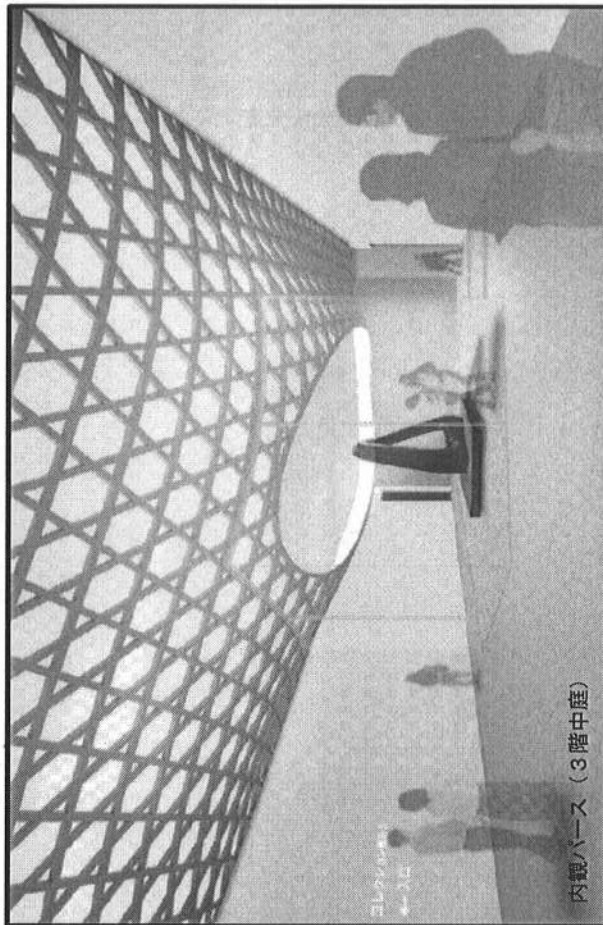
外観パース (南面)



模型写真 (南西面)



内観パース (アトリウム)

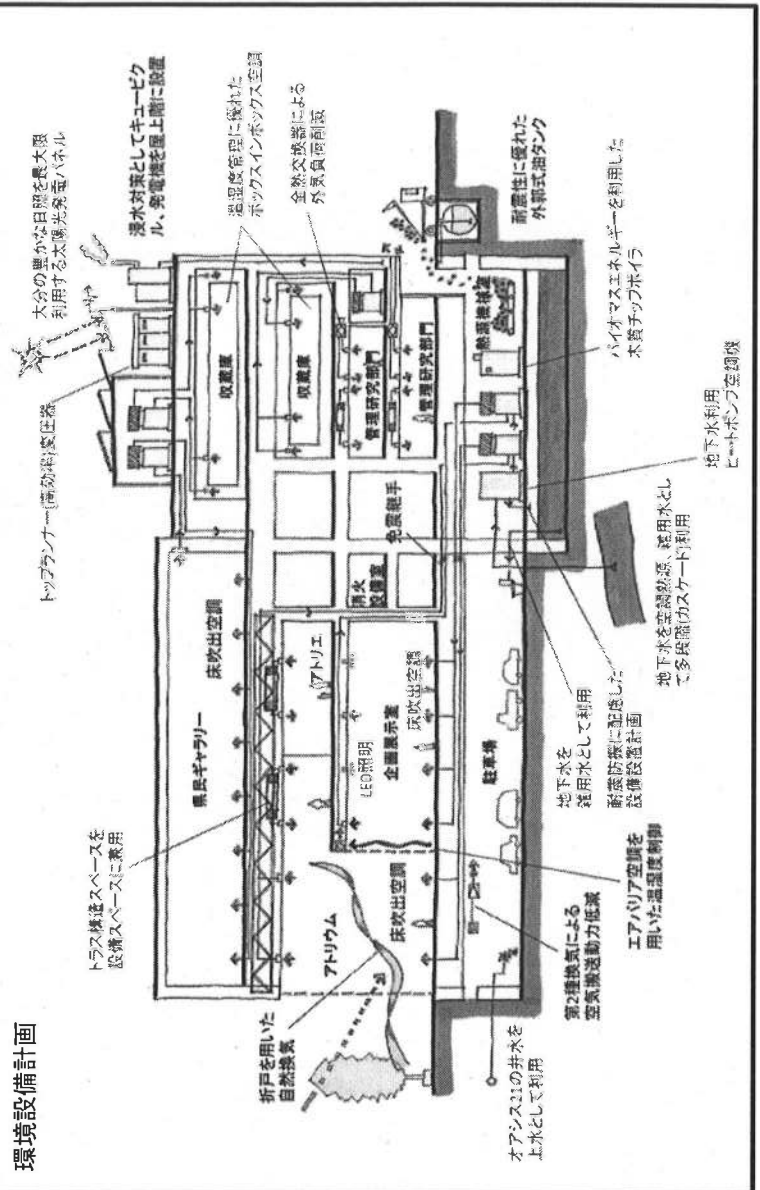


内観パース (3階中庭)

面積表

部門	主な室名	階数	面積 (㎡)
展示部門	展示室A・B コレクション展示室等	1・3	3,423
収蔵部門	第1~3収蔵庫等	2・3	2,266
教育普及部門	アトリエ、研修室等	2	701
サービス部門	ミュージアムショップ カフェ等	1・2	1,775
管理研究部門	事務室、館長室等	1・M2	727
設備部門	空調機械室等	各階	1,519
共用部門	廊下、階段等	各階	2,212
合計			12,623

環境設備計画



1 どんな美術館を目指すのか？

<p>(1) 設置の目的</p>	<p>(2) 期待される役割</p> <p>① 県の芸術文化の中心拠点 ・本県ゆかりの質の高い収蔵品を中心に、国内外の優れた美術を紹介する県立美術館として、大分の顔となり、県の芸術文化の拠点として、大分の美術を牽引していきます。そのためにも、多くの県民に親しまれ、立ち寄ってもらう美術館を目指します。 ② 明日の大分を築く心豊かな人づくりのための拠点 ・県内の子どもたちの美術に触れる機会を確保するとともに、豊かな感性や創造性を育む夢のある楽しい場としての役割を果たしてまいります。 ③ 県出身者の特性を将来につなげていくための拠点 ・これまでも多数の芸術家を輩出してきた本県の高い美術ポテンシャル（可能性）を将来にわたりにしっかり守り育てていきます。 ④ 地域活性化（まちづくり）の拠点 ・美術館を中心とした県内各地域のネットワークを整備し、地域情報を発信するとともに、芸術を活用した地域課題への対応など地域活性化に寄与する事業を展開してまいります。</p>	<p>(3) 大分らしい美術館</p> <p>期待される役割を念頭に、「大分スタイル」のどこにもない美術館で、あわせて、県民が自分たちの応接間と思えるような、「大分らしい」美術館を目指します。 そのため、特に、「県民とともに成長する」をモットーに、将来にわたって美術の多面的な可能性や県民ニーズの多様な広がりにも柔軟に対応できるようにします。 大分の美しい天然自然の中で美術に親しむことができ、「四季を感じる」美術館、さらに、様々な視点、感通を通じて、感性や創造性に訴える「五感を刺激する」美術館を目指します。</p>
------------------	--	---

2 どんな事業活動をするのか？（事業展開のイメージ）

事業展開	主な事業内容	利用施設	年間スケジュール案 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月
コレクション展示	<ul style="list-style-type: none"> ◎約4800点の収蔵品から選りすぐった大分の代表的な芸術家の作品や資料（デッサン等）の展示 ◎県内の市町村、文化施設等が所蔵する作品を活用し、テーマに沿った多様な大分の美術を紹介 	◎コレクション展示室	コレクション展Ⅰ コレクション展Ⅱ コレクション展Ⅲ コレクション展Ⅳ テーマ展示① テーマ展示②
企画展示	◎県民が国内外の優れた美術作品等に幅広く接することができるよう、独自の企画展を開催するとともに、親しみやすいもの、話題性の高いものといった全国規模の巡回展等を誘致	◎展示室A又は展示室B	企画展1 企画展2 企画展3 企画展4 企画展5
県民ギャラリー	◎県民の創作活動による作品の発表スペースとして、春季、秋季の県美展のほか、グループ展や個展への会場貸出	◎展示室B又は展示室A	県民ギャラリー（春季・秋季県美展）
子どもたちの育成	◎幼児から児童・生徒を対象とした美術に親しむプログラムの実施 ◎芸術鑑賞・造形教室、児童生徒の作品展、教師を対象とした研修会等の実施	◎アトリエ、ブレイルーム、研修室	教師向け研修会 子ども向けプログラムの実施
生涯学習の支援	◎アーティスト等による講演会、美術講座、ワークショップ等の開催	◎アトリエ、研修室（アトリウム）	講演会 美術講座 講演会 ワークショップ① ワークショップ② ワークショップ③ ワークショップ④
若手芸術家の育成	◎大分出身のアーティストを紹介する展覧会や若手アーティストを育成するためのコンクール展の開催	◎展示室B又は展示室A	若手作家展覧会 コンクール展 大学卒業展覧会
地域文化の醸成	◎学校や地域への出前講座や講演会等の開催	◎学校、地域文化施設等	出前講座・講演会（随時）
本県文化の顕彰	◎資料管理や調査、研究活動を通じて本県の高い美術ポテンシャルを全国へ発信	◎研究資料室	調査・研究活動（随時）
美術館運営の支援	◎美術館活動のサポートとして県民参加を促進、サポート一研修の実施 ◎情報提供・発信に努めるとともに、友の会組織等を設け、県民とともに成長する美術館を目指します。	◎サポート一室	研修 研修 研修 研修 研修

3 管理運営で留意すること

<p>(1) 基本とすること</p> <p>県民とともに成長するをモットーに美術の可能性や県民ニーズの広がりに柔軟に対応するとともに、多くの県民に親しまれ、立ち寄ってもらえる、「県民の応接間」として利用されることを基本として管理運営を行います。</p>	<p>(2) 管理運営体制</p> <p>美術館の管理運営方式として、県の直営方式と指定管理者に委託する方式が想定され、指定管理者に委託する方式については、管理運営業務のすべてを委託する場合と一部業務を委託する場合の2通りが考えられます。県民ニーズへの対応や隣接する県総合文化センターとの連携にも配慮しながら、美術館活動にとつて適切な運営方式について検討を進めます。設置の目的や期待される役割を踏まえていくために、各事業活動が継続的に十分機能する組織や、県民参加を促す管理運営の体制を検討していきます。また、高い美術鑑賞能力を有する学芸員等を配置し、企業画力を有する学芸員等を配置します。また、県民参加を促す管理運営体制について、検討していきます。</p>	<p>(3) 利用しやすい美術館を目指して</p> <p>多くの人が気軽に繰り返し利用できるよう無料で利用できるスペースを十分に確保します。コレクション展示・企画展示の観覧については、他の美術館の状況なども参考にしながら、原則有料とします。また、多くの子どもが何度も利用できるよう子ども料金の設定を行います。県民ギャラリーや創作活動室などの貸館事業については、利用者負担の原則から有料とする方向で検討します。県民ニーズや管理運営の効率性などを考慮して設定します。開館時間については、県民ニーズや管理運営の効率性などを考慮して設定します。</p>
--	--	--

(4) 関係機関との連携について

- ①教育機関との連携
- ・子どもが芸術に触れる機会を多く持てるよう、美術館のスタッフを学校へ派遣したり、資料等を提供することにより、小・中・高生の感性や創造性を育みます。
 - ・県内の大学と連携を図ることにより、大学の知的資源を活用し、美術館活動を活性化します。
- ②県内美術館及び市町村との連携
- ・県立美術館として、大分市美術館をはじめとする県内の公私立美術館や市町村とのネットワークを構築します。具体的には、地域巡回展の開催や美術館スタッフの派遣、展覧会や調査の共同実施など相互に協力しながら、連携を強化します。
- ③企業や商店街等地域との連携
- ・商店街の空き店舗や通りを利用した若手芸術家やアマチュアの展覧会・個展の開催など企業や商店街をはじめとした地域とのつながりを大切にします。

(5) 美術館活動への県民参加について

ギャラリートーク（展示解説）や企画立案の参加など美術館活動のサポートとして、県民参加を促進します。サポートが知的好奇心を満足させることができるとともに、県内外の美術ファンや企業など、幅広い層から美術館活動を支えてくれるメンバーを募ります。メンバーになると、各種の特典サービスが受けられるとともに、美術館が実施する様々な事業へ参加することができます。

4 整備事業費はどのくらいか？

美術館本体建設費	約 80億円
その他	約 20億円
計	約100億円

(外構工事費、用地・補償費、設計委託料、備品購入費等)

5 これからの整備スケジュール

平成24年4月～10月	実施設計
平成25年4月から	本体建設工事着工予定(約19ヶ月)
平成26年秋	美術館本体竣工予定
平成27年春	開館予定